

大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)における 情報公開について

中島麻衣¹、落合-大平知美²、倉島治³、長谷川寿一⁴、吉川泰弘⁵、松沢哲郎²

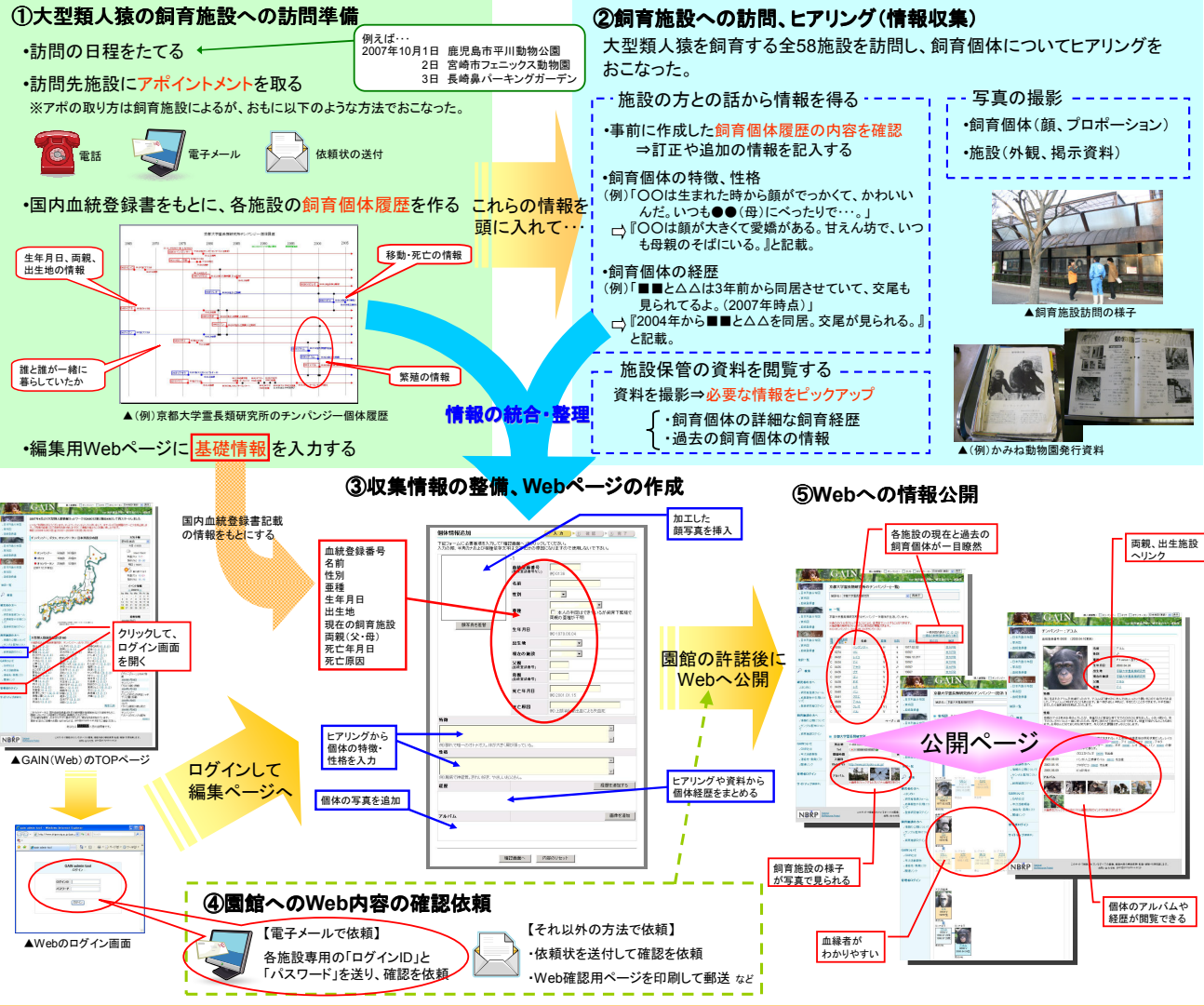
(¹岐阜大学応用生物科学部、²京都大学霊長類研究所、³東京大学教養学部附属教養教育開発機構、⁴東京大学大学院総合文化研究科、⁵東京大学大学院農学生命科学研究科)

はじめに

大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)は、文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)事業の「情報」整備プロジェクトの一環として、国内で飼育されている大型類人猿の情報整備をおこない、飼育施設と研究者とのネットワーク作りに取り組んできた。平成14年度から、日本全国の大型類人猿の飼育施設(全58施設)を実際に訪問して、個体についての情報を収集し、Web上に公開してきた。ここでは、GAINの大型類人猿に関する情報収集活動と、園館から提供された情報をWebサイトに公開するまでの流れなどについて紹介するとともに、現在までの進行状況を報告する。

※資料として、(社)日本動物園水族館協会のチンパンジー国内血統登録書(2007年度版)、ゴリラ血統登録書(2007年度版)、オランウータン国内血統登録書(2007年度版)を使用した。
※調査にあたっては、多くの飼育関係者、動物園関係者のご協力をいただいた。ここに感謝の意を表したい。

作成の方法



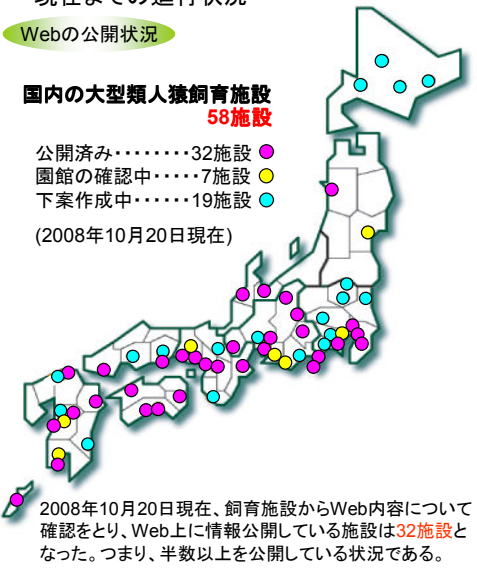
現在までの進行状況

Webの公開状況

国内の大型類人猿飼育施設 58施設

- 公開済み.....32施設
- 園館の確認中.....7施設
- 下案作成中.....19施設

(2008年10月20日現在)



2008年10月20日現在、飼育施設からWeb内容について確認をとり、Web上に情報公開している施設は**32施設**となった。つまり、半数以上を公開している状況である。

未登録個体の追加

飼育施設へ実際にヒアリングに行くことで、国内血統登録書((社)日本動物園水族館協会発行)に登録されていない個体の飼育経歴が見つかった。それらの多くは血統登録作成以前に飼育され、すでに死亡しているか、海外へ搬出されたか、あるいは施設を移動した後に消息が不明となった個体だった。こうした**未登録個体はチンパンジー35個体、オランウータン13個体となった(2008年10月20日現在)**。ゴリラについては、このような個体はいなかった。

※GAINでは、このような新規登録個体には血統登録番号として**9000番台**を割り振り、Webにも掲載している。

さいごに

上記の方法によって集めた情報を整理し、Web上で公開していくことで、それぞれの個体の過去と現在の飼育の様子や、血統登録には記載されない細かな情報を得られるようになる。これにより、飼育施設のスタッフにとっては、移籍個体の飼育の参考になりうる。また、研究者にとっては、血統などの情報から研究への応用が期待できる。GAINの情報整備は、国内で飼育されている大型類人猿の福祉の向上や、生活の質(QOL)の改善へとつながるとともに、研究の重要な資料となるだろう。今後もさらに情報整備を進め、全58施設の情報を公開することを目標に、活動を継続していきたい。

▼GAINのWebサイトをぜひご覧ください▼

<http://www.shigen.nig.ac.jp/gain/index.jsp>



▲GAIN(Web)のQRコード